

育てる活動を通してつながる

校長 寺田 武文

6月のある朝、2年生の女の子から、「先生、見に来て」と促され、プール脇の学校園へと向かいました。その子が手を伸ばして指をさした先には、小指の爪ほどの小さなトマトの実が一つついていました。ひと月ほど前に植え付け、毎日水遣りをしてきた苗に、初めて実がついたことがうれしかったのでしょう。植物を自分の手で育てることによって、様々な気づきや喜びが生まれ、子どもたちの感性は育まれていきます。

学校には、「きやまスマイルファーム」と名付けられた学校園があり、各学年が生活科や総合的な学習の時間、理科等、それぞれねらいに応じて栽培活動を行っています。また、玄関前には5月に行った「花いっぱい活動」のプランターも並んでいます。春から初夏にかけて、登校した子どもたちは、じょうろを携えて、自分たちが育てている植物のところへ向かいます。少しずつ背丈を伸ばし生長していく様子は、子どもたちの姿に重なって見えてきます。

これらの活動は、地域教育コーディネーターさんの協力はもとより、保護者、地域のボランティアの皆様のお力添えによって成り立っています。畑を耕すところから、畝づくり、マルチかけなど、学校職員だけでは手が回らない部分を支えていただいています。心より感謝申し上げます。

5年生の子どもたちは、今年度も地域の特産品である小玉スイカの栽培を行いました。昨年度から導入された「ルビームーン」という品種です。JA新潟かがやきの職員の方や地域のボランティアの方々からご指導いただきながら春に苗を植え、6月中旬に敷き藁、除草、着果などの作業を経験し、先日、収穫を行いました。また、希望者だけの参加ではありましたが、7月中旬に新潟国際情報大学のオープンスクールで収穫したスイカを販売する機会にも恵まれました。

このように、育てる活動をとおして、子どもたちの知識と経験がつながり、地域の人や社会とつながりがもてることは、とてもありがたいことです。これからも、学校や地域の特色を生かしながら、教育活動を進めていければと考えています。



木山小ブログ

日々、子どもたちの日常を情報発信しています。

URL : <https://blog.city-niigata.ed.jp/superkiyama/>

